

## 阿蘇山

### 火山活動度レベル

火山活動度レベルは、2 (やや活発な火山活動) でした。

### 概況

中岳第一火口では、湯だまり内で高さ 5 m 程度の小規模な土砂噴出が継続しています。湯だまりの量は、降水の流れ込みにより 5 月中旬から増加し約 4 割となりましたが、6 月 17 日に約 3 割に減少しました。

孤立型微動の日回数は、6 月に入って減少し、50 回前後で推移しました。また、火山性連続微動は、5 月 13 日以降継続しています。

### 噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量で、噴煙高度の最高は 600m (5 月 : 400m) で特に異常は認められませんでした(図 1、図 2)。

### 地震・微動活動の状況

孤立型微動の月合計は 1,351 回 (5 月 : 2,713 回) と半減し、日回数は 50 回前後で推移しました(図 1、図 2)。また、火山性連続微動は、5 月 13 日 04 時 55 分以降継続しています(図 4)。

A 型地震の月合計は 19 回 (5 月 : 16 回) と少ない状態でした(図 1、図 2)。B 型地震の月合計も 46 回 (5 月 : 37 回) と少ない状態でした(図 1、図 2)。地震の震源は中岳第一火口付近と中岳の北約 5 km の 2 ヶ所に求まっています(図 3)。

### 火口や噴気地帯の状況

中岳第一火口の湯だまりの量は、降水により 5 月中旬に約 4 割に増加しましたが、その後は減少傾向が続き、6 月 17 日に約 3 割となっているのを確認しました。湯だまりの色は灰色で、中央部付近及び南西部で高さ 5 m 程度の土砂噴出が継続していましたが、23 日には南西部の土砂噴出部分は火口底が露出し、噴気口となり勢いよく噴気を上げていました。また、その他の場所でも高さ 2 ~ 3 m 程度の土砂噴出が多数発生しています。

湯だまりの表面温度は 70 以上(最高 23 日 76 )で、南側火口壁下の温度も最高で 390 (3 日) と高い状態が続いています(図 1)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

### 地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には、火山活動に起因する変化はありませんでした(図 5)。

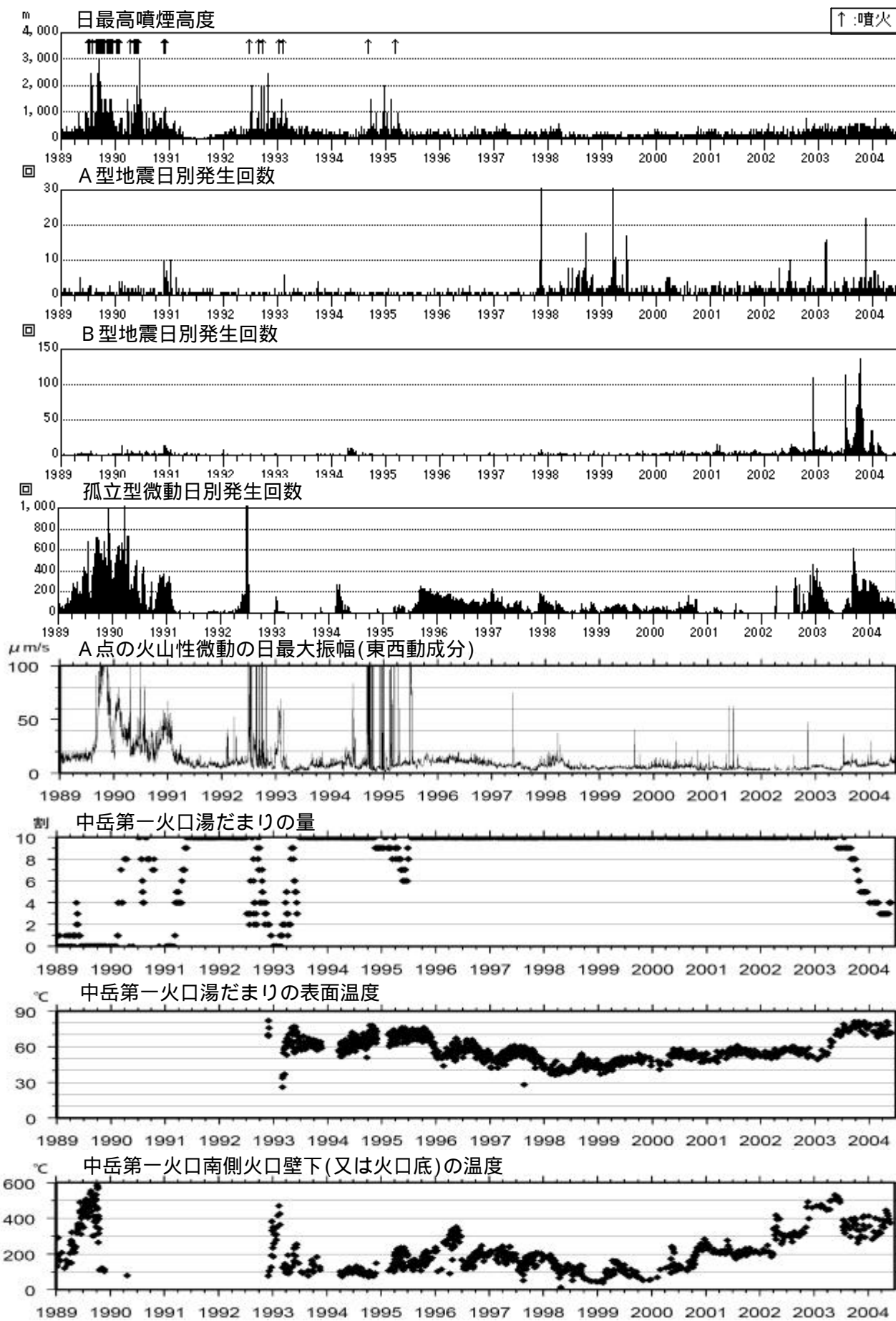


図1 火山活動経過図(1989年1月1日~2004年6月30日)

阿蘇山

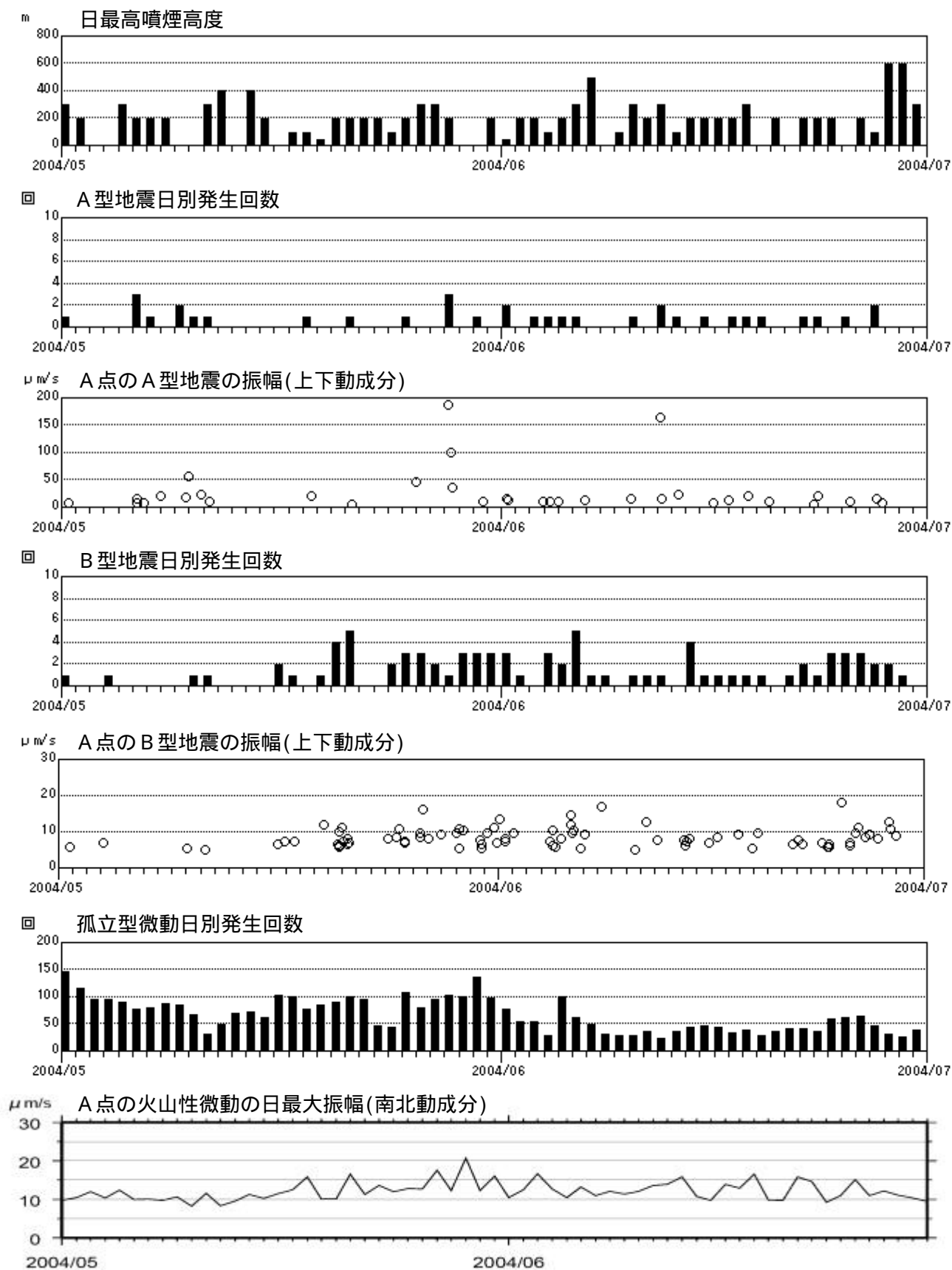


図2 火山活動経過図(2004年5月1日～6月30日)

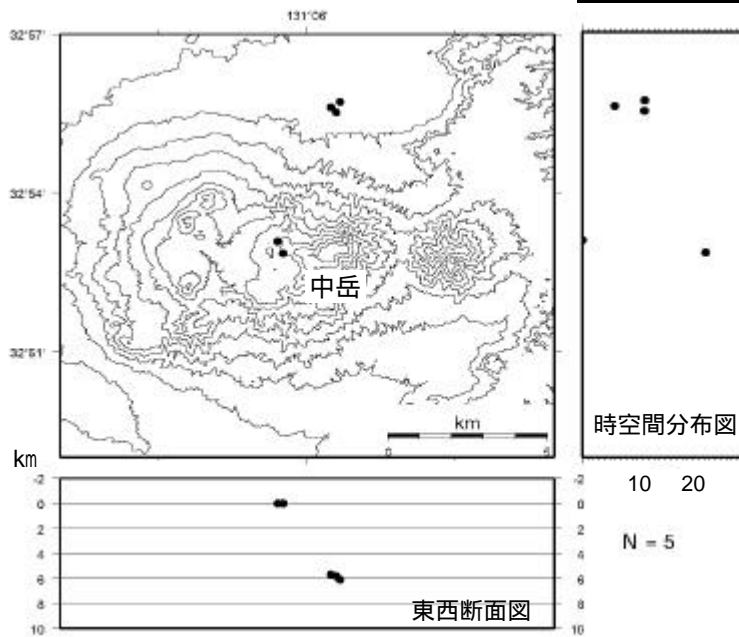


図3 火山性地震の震源分布図(2004年6月1日～30日)  
震央分布図(左上)、 時空間分布図(右上)、東西断面図(下)  
本資料は、独立行政法人防災科学技術研究所、京都大学、気象庁のデータを用いて作成している。

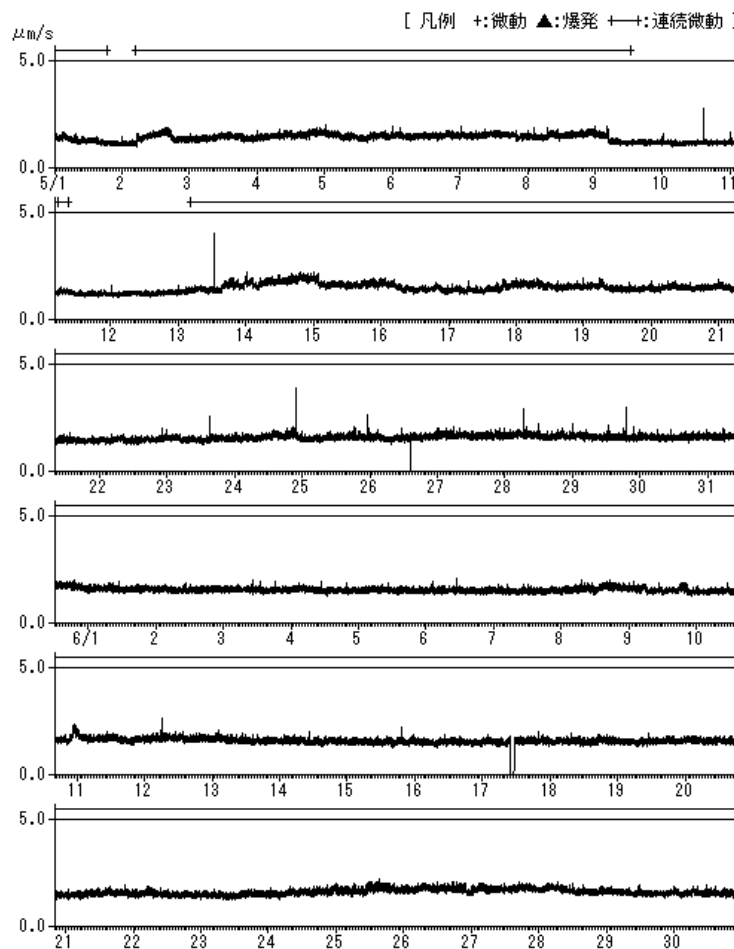


図4 1分間平均振幅の時間変化(A点南北動成分)  
2004年5月1日～6月30日  
(6月17日機器障害によりデータ断が発生している。)

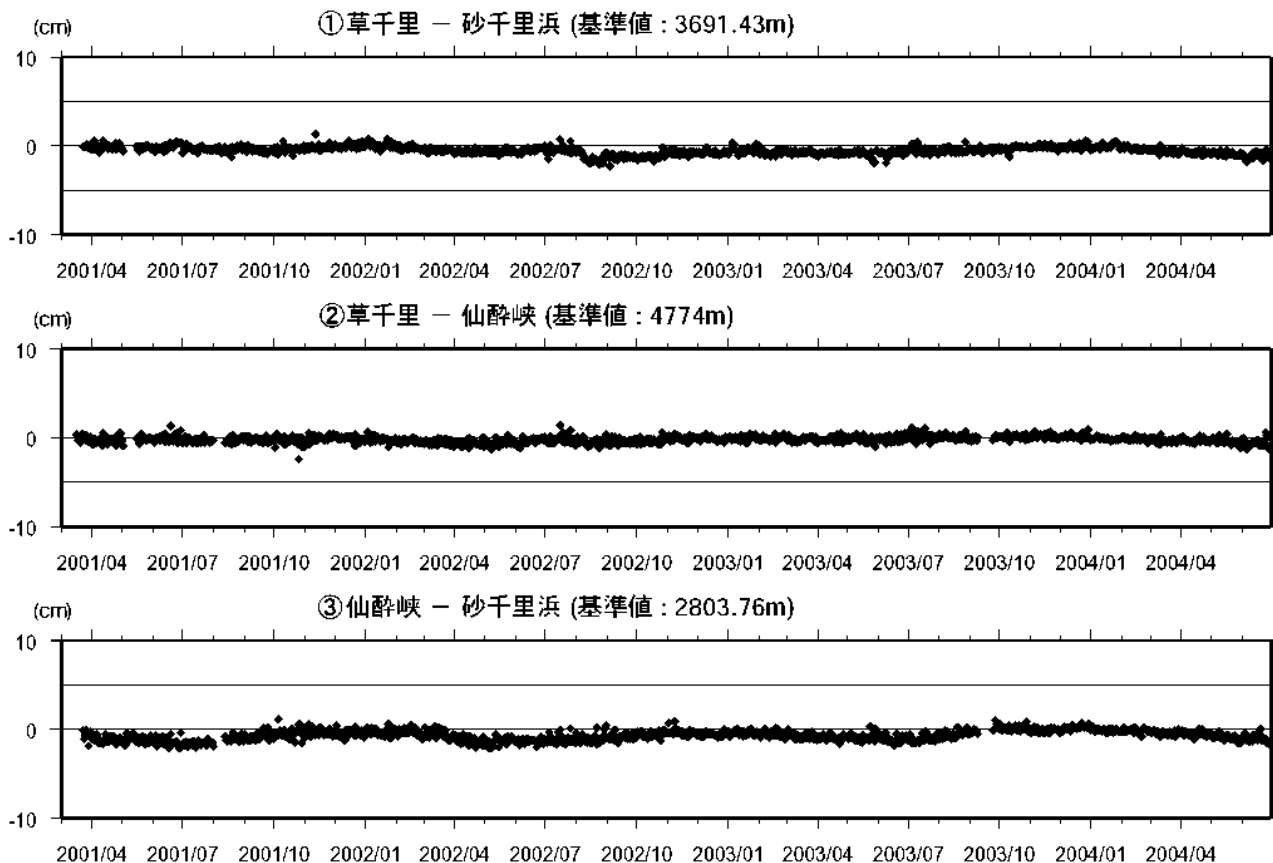


図5 GPS観測による基線長変化(2001年3月15日~2004年6月30日)

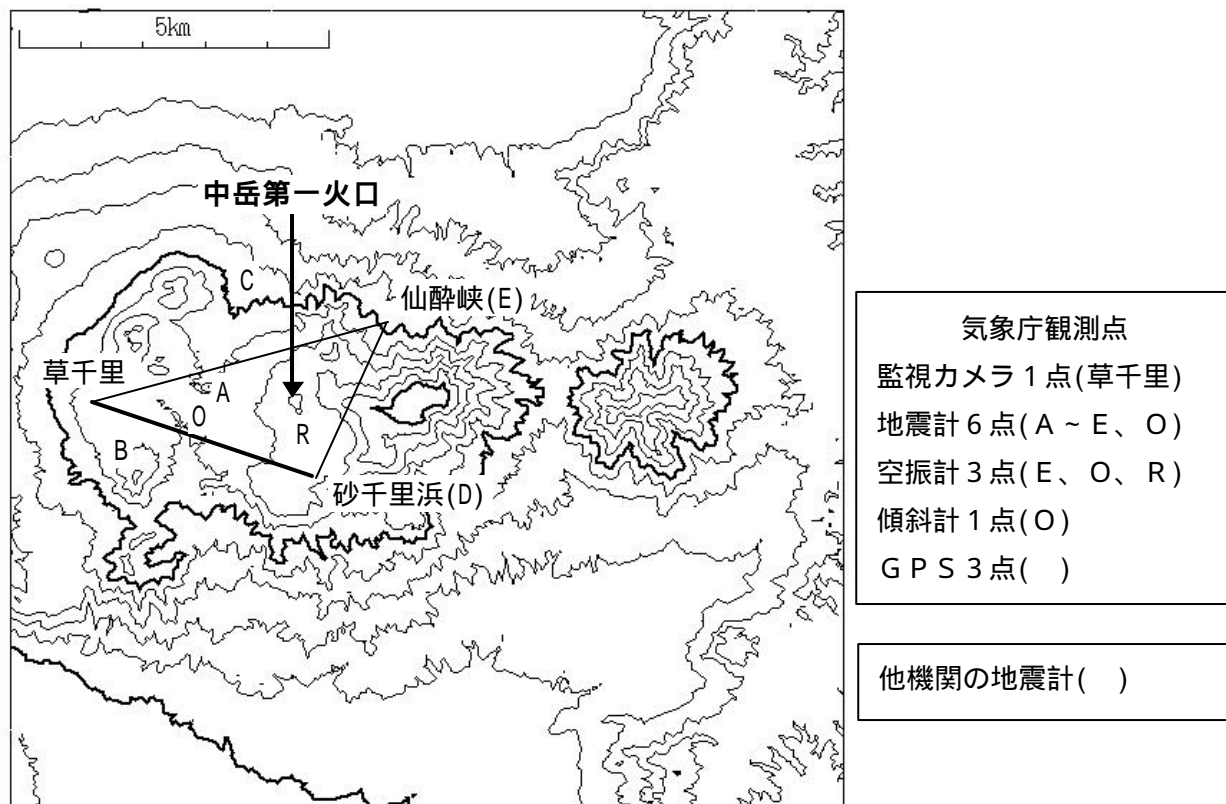


図6 観測点位置図